

2月のTOKO おしゃべり会報告

清水 泰代（越谷市）

2/14（金）朝から雪の降る寒い日でしたが、TOKO おしゃべり会の参加者は8名でした。話題はそれぞれの近況報告の他に県立高校の入試が間近に迫っていることもあり、どの子も地域の公立高校へ埼玉連絡会のメンバーが、今年は3名受験すること。連絡会で13日に記者会見したこと。その記事が毎日新聞の埼玉版に掲載されたことなどの情報共有をしました。

また3月、文教大学の八藤後先生を迎えて勉強会をすることの確認。詳細打合せは、3月TOKO おしゃべり会で詰めます。

3月はメンバー2人が卒業式のため、おしゃべり会日程を14日→20日午後に変更します。

高校入試:公立高、障害者受け入れ拡大を 学力重視で逆風 保護者ら要望

／埼玉 毎日新聞 2014年02月14日 地方版

県内の障害のある児童生徒や保護者でつくる「どの子も地域の公立高校へ・埼玉連絡会」のメンバーらが13日、県庁で記者会見し、公立高校入試で障害のある受験生に配慮し、受け入れ拡大を求める要望書を各校の校長らに送ったことを明らかにした。公立高入試は学力重視の傾向が強まり、8回目の試験で合格した受験生も出るなど、障害のある児童生徒を取り巻く環境は厳しさを増しているという。同会は「点数に表せない学習意欲や努力を評価してほしい」と訴えている。【木村健二】

公立高入試は、学力検査（全校共通500点）▽調査書（各校によって異なる）▽その他の資料（同）――の三つの選抜資料を点数化し、得点の高い受験生を合格にする仕組み。現行方式は2010年度から始まった。障害のある受験生は「調査書」の一項目として、障害によって生じることや志願の理由などを記入する「措置願」を提出する。昨春の公立高入試では計109件の措置願が提出されたが、取り扱いの実態が不明で、同会は「障害の重い生徒は得点が足りず、本人の力不足として落とされてしまう」と一層の改善を求めている。

障害のある児童生徒数は、右肩上がりとなっている。県内の13年5月の児童生徒数は特別支援学校が01年度比1.6倍の6813人、通常学級での指導が困難な「特別支援学級」が同1.8倍の5884人、通常学級に通いながら特別な指導を受ける「通級指導教室」が同2.1倍の3006人。

だが、公立高入試は少子化に伴う定員の減少や定時制の廃止が相次ぎ、障害のある受験生には逆風が吹いている。30代で定時制高校に入学して卒業を果たした「埼玉障害者市民ネットワーク」の野島久美子代表は「母校がなくなるのは寂しい」と嘆く。

通常学級で学ぶダウン症の中学3年の息子が受験予定という母親は、「みんなと同じように高校に行くのは自然な流れ。高校でも友達を作り、部活動に励みたいと思っており、本人の希望をかなえてあげたい」と語った。

春休み TOKO 勉強会のお知らせ



「いま学校では・まちでは一障害児者とその周辺」

お話:八藤後忠夫さん (文教大学教育学部教授 特別支援教育)

八藤後さんは、かつて埼玉県立高校の教員をなさっておられました。「どの子ども地域の公立高校へ・埼玉連絡会」の活動との出会いもありました。あれから20年—いま、教員をめざす学生たちを育てながら、21世紀に入っの「特別支援教育」と呼ばれる動き、あるいはそのことに示される社会のありようを、どのようにとらえ、若い人々に伝えようとされておられるのでしょうか？お話を聞きし、ざっくばらんにおしゃべりしたいと思います。

3月27日(木) 13:30~15:30 (希望者は終了後ファミレスでおしゃべりも)

会場:春日部市市民活動支援センター「ぽぽら春日部」

〒344-8578 春日部市南一丁目1番地7号東部地域振興ふれあい拠点施設4階

048-731-3550 春日部駅西口下車 線路沿いに越谷方面に歩くとすぐです

会費300円(資料代) 連絡先/中山 090-2202-5271 藤ヶ谷 048-761-992

主催:わらじの会 どの子ども地域の学校へ・公立高校へ東部地区懇談会(TOKO)